



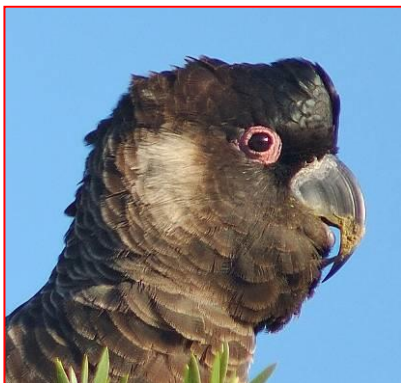
情報ページ

Baudin's Cockatoo

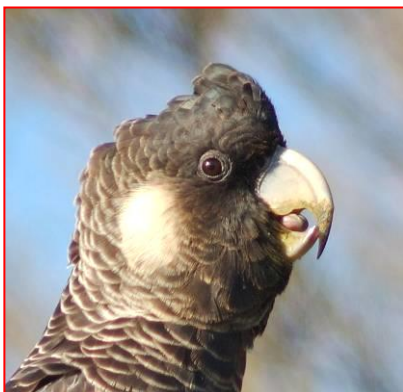
Calyptorhynchus baudinii ボーダंकクロオウム



雄 (左) 雌 (右)



雄



雌

別名

Baudin's Black Cockatoo, Long-billed Black Cockatoo.

フランス探検家Nicolas Baudin (1754–1803)を慕い名づけられた。

脅威的な事

“Listed Endangered: Schedule 1 – Western Australian Wildlife Conservation Act”.

“Endangered: under Federal *Environmental Protection and Biodiversity Conservation Act*”これらに記載されている。

少数から適度な数でみられ、南西奥部ではもっとも多い。休息地では、約300羽ほどの群れ、希に1200羽ほどの大集団を形成。その数はこの50年間で減少しており、出生率は年間0.6羽と低く、それは果実栽培者に殺傷され出生率の向上を妨げている。

形態

体長50–60 cm. 体重 560–770 g. ニシオジロクロオウムCarnaby's Cockatoo よりも、上くちばしは狭く長い。

雄:羽毛はほとんどが茶色がかった黒、羽の後方部は濁白色でホタテ貝の形に見える。耳は濁白色の短い羽で、尾羽は中心を境に白線が尾の後方に伸びている。くちばしは黒色、ピンク色の目の周りは肌が露出している。

雌:雄と似ているが、耳は黄色がかった白色の羽で覆われ、くちばしは灰色っぽく先端は細く濃い色。目の周りの肌は灰色。

鳴き声

“whicher whicher”, “bunyip bunyip”と群れ呼び、繁殖期は”arr”.

繁殖

Karri, Marri, Wandoo, Bullich の木の樹洞に巣をつくる。

卵を8月から12月の間に1個から2個産むが、若い1羽だけが育てられる。卵の孵化は雌のみが行う。

寿命 25–50年.

分布

西オーストラリア州南西部の湿地を伴う範囲でみられ、北はGidgegannup, 東はClackline, Wandering, Quindanning, Perup River, Lake Muir, King River, そしてWest Midland, Gosnells, Byford, North Dandalup, Yarloop, Wokalup, Bunbury を含む東西にのびるスワン海岸平野地帯, Stirling とPorongurup一帯, また、南海岸沿いのWaychinicup National Park. この属は西オーストラリア州だけの独特の種類である。

生息地と食餌

Jarrah, Marri, Karriの木がある南ユーカリ森林郡。Eucalypts, Banksia, Hakeaの種, りんごや洋梨の果実, 花の蜜, 木の芽, 花, 甲虫の幼虫を探しながら, 枯れ木の皮を食べる。餌探しは地上から上空まで幅広い。



雌ボーダクロオウムの巣

属の脅威

森林の伐採、山火事、車による接触事故、自然界にすむみつばちが巣をつくった樹洞を略奪、また、過去では果実栽培者に害鳥として多くの数が殺傷された。

参照

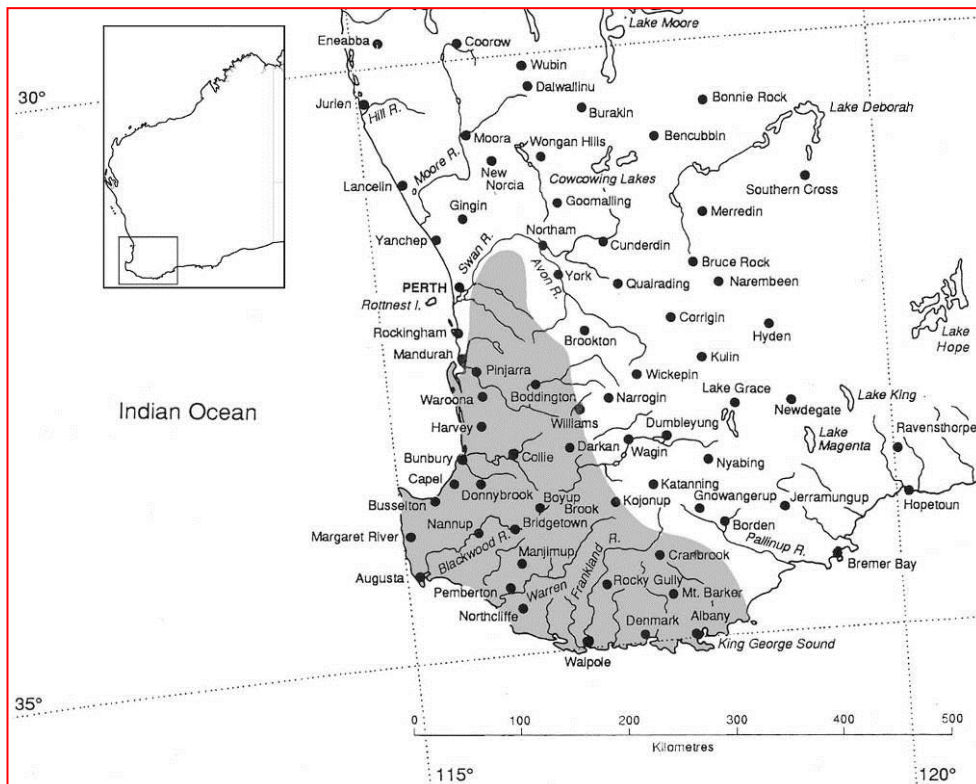
Johnstone, R.E. and Storr, G.M. (1998). *Handbook of Western Australian Birds*. Volume 1 – Non-passerines (Emu to Dollarbird). Western Australian Museum pp. 278–280.

Johnstone, R.E. and Kirkby, T. (2008). Distribution, status, social organisation, movements and conservation of Baudin's Cockatoo (*Calyptorhynchus baudinii*) in South-west Western Australia. *Records of the Western Australian Museum* **25**: 107–118.

訳 : Kimiko O



ボーダクロオウムが食べたマリー実



西オーストラリア州南西部における現在の分布